

地域との交流促進

在り方検討会やパンフ

あす初の市 菓子、野菜を販売



施設への理解を深めてもらうため、ひらた旭川荘が作ったパンフレット

代の職員10人が中心となる。2千部を作り、8重行総括施設長は「外なり、施設周辺で聞き取り調査などをして、今や公民館などに配って後の施設の在り方や求められるサービスについて考えている。

立おかやま福祉の郷の名称で2003年に開設。10年に現在の名前になった。約4万7千平方メートルの敷地には身体障害者の自立訓練などに取り組む「のぞみ寮」、知的障害児が暮らす「わかき学園」といった7施設があり、3〜76歳の約200人が利用している。

施設の老朽化を踏まえ、昨年10月に将来像検討会が発足。20〜40代の職員10人が中心となる。2千部を作り、8重行総括施設長は「外なり、施設周辺で聞き取り調査などをして、今や公民館などに配って後の施設の在り方や求められるサービスについて考えている。

の運営を引き継ぎ「県立おかやま福祉の郷」の名称で2003年に開設。10年に現在の名前になった。約4万7千平方メートルの敷地には身体障害者の自立訓練などに取り組む「のぞみ寮」、知的障害児が暮らす「わかき学園」といった7施設があり、3〜76歳の約200人が利用している。

ひらた旭川荘の田中（小若菜美）

障害者支援施設ひらた旭川荘（岡山市北区平田）は、地域との共生を旨とした取り組みを強化している。近い将来の建て替えを見込み、施設の在り方の検討会を設け、地域住民が求める施設像などを探るほか、紹介パンフレットを作製。22日には利用者が作った菓子や野菜などを販売する「ひらたの市」を荘内で初めて開く。

会福祉法人旭川荘（岡山市北区祇園）が県立総合社会福祉センター

ひらた旭川荘の田中（小若菜美）

「ひらたの市」を荘内で初めて開く。

ひらた旭川荘は、社